

紹介

吉岡哲さんが作成したMac用Radial Plot作成ソフトウェアについて、1996年12月の研究会席上、吉岡さんより、フリーウェアとして公開し、彼のホームページよりダウンロード可能である旨のアナウンスがありました。

編集委員会では吉岡さんに、概要の紹介をFTNL誌上でも行いたい旨を御願いし、下記のような紹介記事を作成していただきました（編集委員会）。

Radish:Mac用Radial Plot作成ユーティリティ

吉岡哲 (株) 京都フィッション・トラック

Radishは日本国内では初めて開発された、radial plotを描くためのMacintosh用softwareです。radial plotとはGalbraithが1988年に提案した（Galbraith 1988, 1990）、いくつかの異なる確度を持つFission-track年代を比較するためのグラフィカルな手法です。radial plotでは年代値が円弧上のスケールに、年代値の確度が横方向のスケールに表されます。radial plot上での各点は原点付近に表されるエラーバーとおなじ大きさのエラーバーを持ち、原点から各点に向けた直線の延長線上で円弧との交点で年代値・エラーを表します。

今後とも、より使いやすいRadishをめざしていきたいと思っておりますので、不具合や改善すべき点などありましたら、ぜひ開発元までご連絡ください。

連絡先：(株) 京都フィッション・トラック
吉岡 哲
e-mail : tetsu@geisya.or.jp

またRadishの最新版は以下のホームページで公開されています。

<http://www.geisya.or.jp/~tetsu/>

Radishの特徴

- ・RadishはMacintoshのUser Interfaceに沿った、直感的に使うことができるapplication softwareです。簡単な操作で、誰にでもradial plotを描くことができます。
- ・radial plotの大きさや年代値ラベルは自由に変更ができます。
- ・描いたradial plotはCopyして他のドロー系software加工することができます。またMacintoshでサポートしている全てのプリンタで印刷することができます。

著作権、使用、配布について

(1) Radishの著作権は、吉岡哲 (e-mail: tetsu@geisya.or.jp) にあります。著作権者の許可なくRadishの一部または全部を改変することはできません。

(2) Radishは無償で使用することができるフリーウェアです。使用者の責任の範囲で使用してください。ただし、Radishを使用した結果について私は一切責任を負いません。

(3) 非営利にかぎりRadish自由に複製、配布ができます。CD-ROMでの配布や商品にバンドルする場合は事前に書面により許可を求めてください。

使用環境

(1) Radishは、System7.1または漢字Talk7.1以降のMacOSのもとで使用できます。System6.0.8前のMacOSのもとでは使用できません。

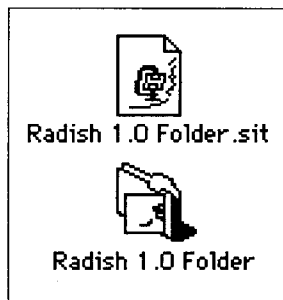
(2) RadishはFat Binary Applicationです。で、68020以上の68K MacintoshおよびPower Macintoshで動作します。

(3) Radishをインストールするにはハードディスクに1MB以上の空き容量が必要です。またRadishを使用するには、メインメモリに768KB以上の空きメモリが必要です。

Reference

- Galbraith, R.F., 1988, Graphical Display of Estimates Having Differing Standard Errors, *Technometrics*, Vol. 30, No. 3, pp. 271-271.
Galbraith, R.F., 1990, The Radial Plot: Graphical Assessment of Spread in Ages, *Nucl. Tracks Radiat. Meas.*, Vol. 17, No. 3, pp. 207-214.

1.Radishのダウンロード：吉岡のホームページのRadishのページ
 (http://www.geisya.or.jp/~tetsu/radish) から、「ダウンロード」を選択すると、圧縮したファイル (Radish1.0Folder.sit) がダウンロードされ、自動解凍され、Radishのフォルダ(Radish1.0Folder)が現れます(右)。



2.Radish1.0Folderを開くと、上の4つのアイコンが現れます。

untitled1

Zeta: 334.0 ± 4.0

Nd: 2474 Sd: 308.0 × 10⁻⁴ cm²

N: 37 EDM: ED1

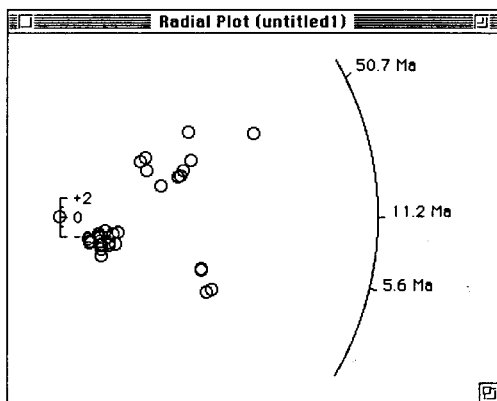
3.最初の画面：zeta値などの設定画面。ED1とED2の選択ができます。

Input Grain Data (untitled1)

	Ns	Ni	S (× 10 ⁻⁶ cm ²)	1 / 4
1	2	9	1.2	
2	1	16	1.8	
3	3	9	1.6	
4	0	10	1.0	
5	4	12	1.2	
6	1	11	1.5	
7	2	10	1.3	
8	2	19	2.0	
9	5	13	1.6	
10	3	20	2.7	

Cancel OK

4.粒子データの入力画面。粒子データはテキスト形式のファイルからも読み込めます。



5.Radial Plot出力画面。このままコピーして、ドロー系のグラフィックソフトに取り込めます。